



現評ニュース

自治労都本部現業評議会

2024年9月24日発行

2024年度・第5号

発行責任者・議長 赤池智範

「あきらめず、粘り強く」 新規採用を目指した取り組みを！

2024都本部現業セミナー を開催



ご挨拶



自治労都本部
江森副委員長



都本部現評
赤池議長

9月14日～15日、2024都本部現業セミナーを開催した。宿泊を伴う形は約15年ぶりが、2日間とも参加がかなわなかった仲間もいたが、15単組68名が結集した。「新規採用にむけた取り組み」「職種間連携」を柱とし、1日目はパネルディスカッション・基調講演、2日目には単組報告・分散会を通じて、様々な課題の共有や単組間・職種間の交流が図れた。

全国的に現業の採用が増えてはいるが、都本部においてはまだまだ勝ち取れていない。今現業セミナーで共有した情報を自分の単組に当てはめ、使える手法を考え、交渉や取り組みに生かさなければならぬ。これで終わることなく、継続的に情報共有に努め、都本部現評全体での新規採用につなげていこう。



青梅市職 吉野さん
「久しぶりの新規採用だったが、辞退となった。当局に必要性は認めてもらっている。オールマイティーを目指して取り組んでいく。」



八王子市職 笹川さん
「脱単純労務職員と口にするのは簡単だけど、取り組むのは大変。当局側も見ているため、連続採用にむけて発展させなければならない。」

町田市職労 中川さん
「あり方の議論の中で管理業務について話を進めた。採用してからのプログラミングについても検討している。」



パネルディスカッション
「新規採用にむけて、いま何ができるか」

東京清掃 鈴木さん
「退職不補充方針を改め、23年ぶりに新規採用。災害時対応の必要人員について協議を進めた。」



【全国的な動向】

新規採用を勝ち取っている単組では、継続的に採用されている

○技術の継承の観点から採用を再開

(少数人数職場では、退職する前に採用を実施)

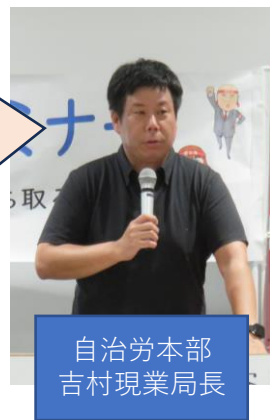
○公共サービスの質の維持にむけて採用

(民間委託事業者では対応できない、と当局に認めさせる)

○災害対応を踏まえた採用

(日常業務に対応しつつ、災害対応を実施)

1人職場(1人しかいなくなった職場)でも採用を勝ち取っている。あきらめない、粘り強く、継続した交渉を積み重ねることが必要である。



自治労本部
吉村現業局長

基調講演
「全国的な新規採用の
状況について」



職種間連携に関する単組報告
「小学校の委員会活動を
清掃と用務職員が牽引」

練馬区職労
阿部副委員長



グループワーク

職種間コラボで可能性を
発掘しよう！

練馬区では官民間わず現業職員が活発に交流、「練馬現業共闘会議」として活動している。学校用務職員が提起し、清掃事務所に依頼。清掃の「ふれあい環境学習」から環境委員会への参加という形でつながっている。今後の課題としては、委託によって現場が減り、連携が困難になってきていること。今後も新しい現業像を追求していく。



今回のグループワークは、職種間連携を考える前に、他の職種について知ることから始めるという趣旨で行いました。「住民の立場で」「職員の立場で」質問を考え、「一番大変なメニューは？(給食)」「怪我しやすいのはどんな作業？(用務)」などを投げかけ合いました。相手の職種を知るだけでなく、聞かれた側も新たな「見られ方」につながったのではないかと思います。引き続き、都本部現評として団結強化にむけ、お互いに興味を持つ関係となっていくよう取り組みを進めていきます。



都本部現評
団結して
がんばろう！！

